フジインスタント写真“フォトラマ”

きれいに写すための撮影ガイド

FUJI
INSTANT CAMERA F-50S

きれいに写すために、操作は正しく行いましょう。

1 フィルムパックは、両端を持って。

フィルムパックを包装から取り出す時や、カメラに装てんする時には、必ず両端を持つようにしてください。フィルムパックの黒色のフィルムカバーに圧力を加えると、プリントにムラが出ることがあります。

2 フィルムの装てんは、ラインに合わせて正確に。

カメラの裏ブタを開けて、カメラのオレンジ色の線にフィルムパックのオレンジ色の線を合わせて、正しく装てんしてください。

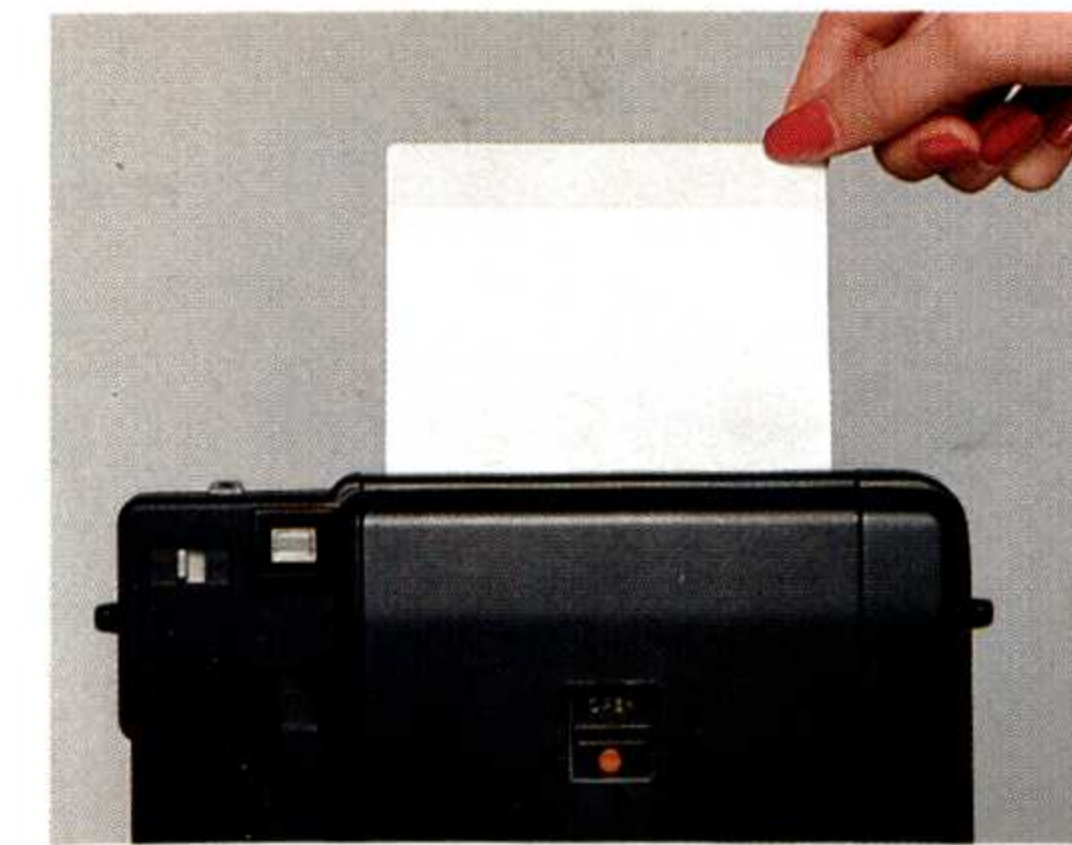
シャッターを押したその場で、美しい写真が楽しめるのが、フジ インスタント写真「フォトラマ」。
楽しいインスタント写真をより美しく写すための、大切な撮影のポイントを紹介いたします。
いつもきれいな写真を写すために、このガイドブックをあなたのそばに置いて、ご活用ください。

3 シャッターを押して、黒色のフィルムカバーを取り出す。

シャッターを押すと、黒色のフィルムカバーが出てきます。これで撮影準備完了です。
なお、このカバーは写真立ての脚としても使えますので、残しておくと便利です。

4 さあ、距離を合わせて撮影開始。カメラは正しく構えて。

さあ、撮影開始です。まず距離合わせを正確にして。カメラは水平に、正しい姿勢で構えてください。あとはシャッターを押すだけです。

5 カメラから出てきたプリントは、端を持って取り出す。

シャッターを押し、離すと同時にプリントは自動的に送り出されます。カメラからプリントを取り出す時は、端を持ってください。

フィルムの使用は、お早目に。

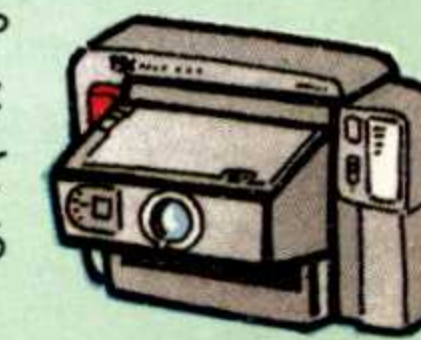
カメラに装てんしたフィルムは、できるだけ早目に撮るようにしてください。
また、未使用のフィルムも 有効期限内に使うことをお忘れなく。

1983-04

フィルムの入ったカメラは、涼しく、乾燥した場所に。

カメラにフィルムパックを入れたら、涼しく、乾燥した場所に保管してください。また、砂浜や閉めきった車の中など、カメラを温度の高い所へ置いておくと、故障の原因となることがあります。

美しいプリントは、“30秒間の温度”が大切です。

より美しいプリントは、カメラからフィルムが送り出された後の“30秒間の温度”がとても大切です。適温は、15℃～40℃の間です。
特に温度の低い所では、カメラから出てきたプリントをただちにポケットに入れるなどして暖めてください。また、ストーブの近くなど極端に温度の高い所はさけてください。

さあ、フジ インスタント写真「フォトラマ」ならではの楽しさをおおいに満喫してください。

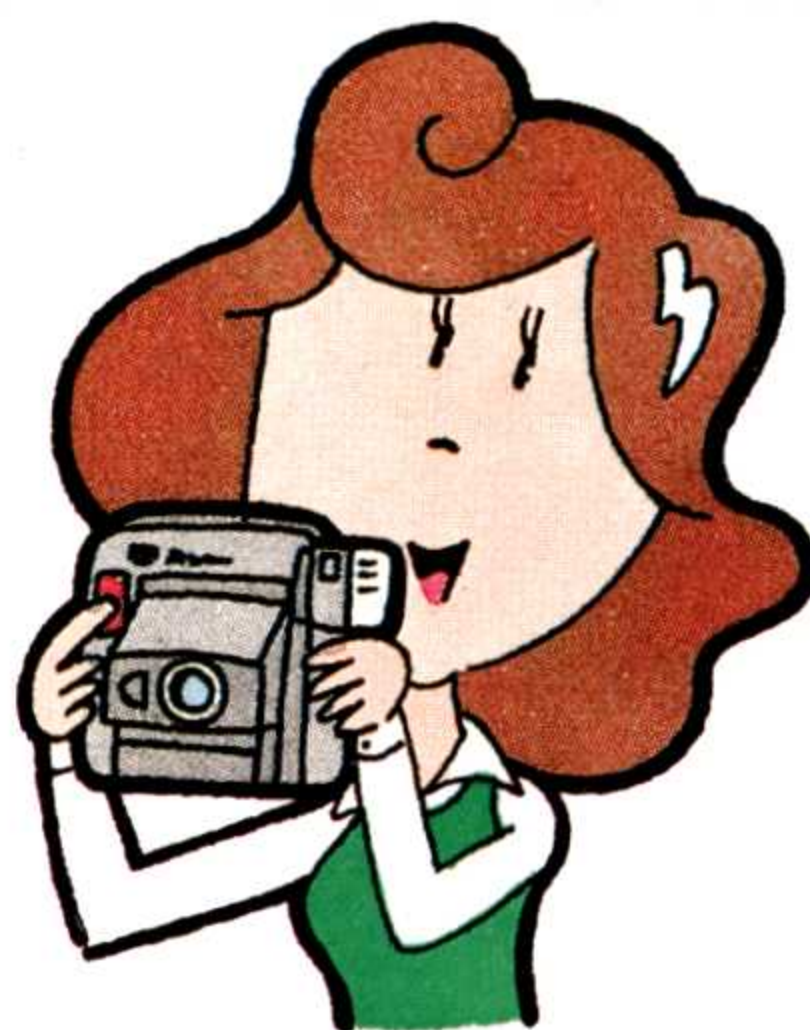
フジ インスタント写真「フォトラマ」は、あなたが美しいものに出会った瞬間に、撮りたい場面に出会った時に、すぐに写して、その場で楽しむことができます。家族のはじける笑顔を、楽しい行事の数々を、みんなで一緒に“写して！見て！”楽しみましょう。
アイデア次第で、あなたのフジ インスタント写真「フォトラマ」の世界は、大きく大きくふくらむことでしょう。

想い出に、ひと言書き添えて。

プリントの余白のメモ欄には、文字を書き入れることができます。えんぴつ、ボールペン、サインペンなど何でも使えます。ひと工夫して楽しく生かしてください。

フィルムパックは、写真立てに。

空になったフィルムパックは素敵な写真立てに早変り。黒色のフィルムカバーを溝の所で折り、切り離してフィルムパックの裏側に差し込むだけで簡単に出来上がります。直射日光の当たらない場所に飾ってください。

プリントをフィルムパックに入れる時、黒色の出口テープをはがし、金属バネを押しながら1枚ずつ入れてください。10枚まで入れることができます。また、撮影直後のプリントを入れると液もれを起し画面を黒く汚すことがあります。1日位たってから入れるとよいでしょう。

太陽の光を上手に使って、イキイキとした表情をとらえましょう。

写したその場で、美しい写真が楽しめるだけに、写す時はよりイキイキとした、表情が豊かな写真となるように工夫したいものですね。インスタント写真は、写す時の"ちょっとした工夫"で、見ちがえるほど美しい写真を楽しむことができます。

※作例は、フジ インスタントカラーフィルムFI-10で撮影。

被写体に、光が均一にあたるように。

写したい被写体に、太陽の光がまんべんなくあたるようにしてください。ホラッ、こんなに明るく、美しい写真が写せます。
また、明るい所でもストロボを補助光として使うことをおすすめします。

屋根や樹木などの影が画面の中に入ってくると、暗い感じの写真になってしまいます。

イキイキした表情はできるだけアップで。

写す時は、できるだけ被写体に近づくように心がけましょう。イキイキとした写真が楽しめます。笑顔も、こんなにこぼれるばかりに！

遠くから写すと、このようにおとなしい写真になって、特に人物の表情が伝わってきません。

撮影条件に合わせて、濃淡コントロールを上手に使いましょう。

フジ インスタントカメラ「フォトラマ」は、露出合わせのいらないEE機構を採り入れています。ほとんどの場合は、ピントを合わせて、シャッターを押すだけでOKです。
そのうえ、より美しい写真がいつでも写せるように、プリントの濃淡をコントロールするツマミもついています。
撮影条件に合わせて、上手に使い分けてください。

※作例は、フジ インスタントカラーフィルムFI-10で撮影。

バックが被写体より極端に暗い時は、ツマミを「DARKEN・濃」に。

被写体よりバックが極端に暗い時には、あらかじめツマミを「DARKEN・濃」にセットして写してください。こんなにきれいに写せます。

暗いバックで明るい被写体をそのまま写すと、被写体が白っぽく写ることがあります。

バックが被写体より明るい時は、ツマミを「LIGHTEN・淡」に。

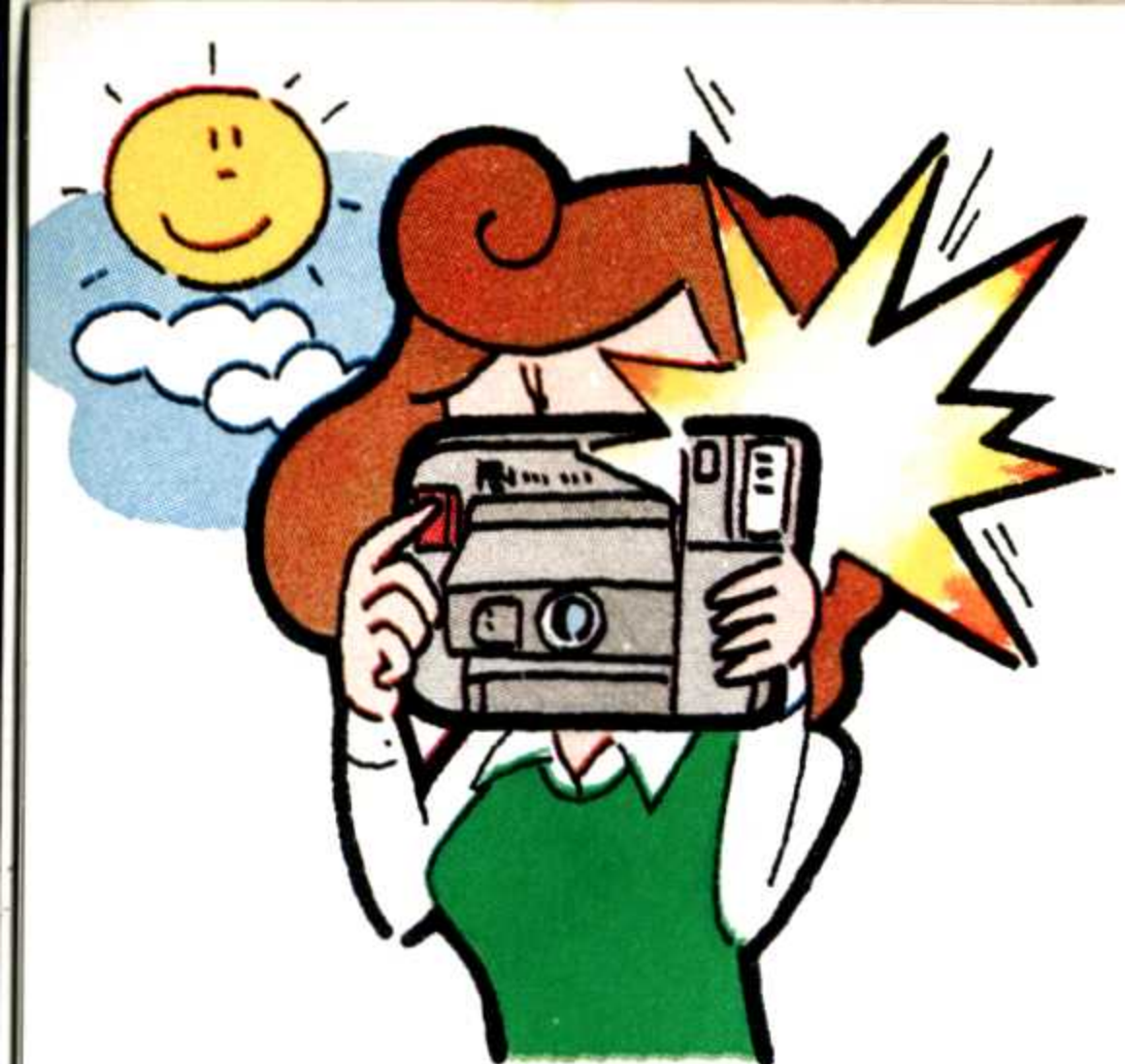
被写体よりバックの方が明るい時には、あらかじめツマミを「LIGHTEN・淡」にセットしてください。こんなにイキイキと写せます。

明るいバックで暗い被写体をそのまま写すと、被写体が暗い感じで写ることがあります。

プリントが白っぽい時にも…

プリントが全体的に白っぽく仕上がる時にも、ツマミを「DARKEN・濃」にセットして写してください。

プリントが暗い感じの時も…

プリントが全体的に濃いめに、暗い感じで仕上がる時にも、ツマミを「LIGHTEN・淡」にセットして写してください。

明るい所でも、ストロボを使ってより美しく写しましょう。

フジ インスタントカメラ「フォトラマ」は、ストロボ撮影がいつでも手軽に楽しめます。ストロボは暗い所で使うだけではなく、昼間でもどんどんストロボ撮影を楽しみましょう。
ストロボを補助光として利用すれば、もっともっと美しい写真を楽しむことができます。

※作例は、フジ インスタントカラーフィルムFI-10で撮影。

木陰や逆光などの時には、日中でも気軽にストロボ撮影を。

暗い木陰でもストロボ撮影をすれば、カゲがなくなり、こんなに表情がイキイキと写せます。

木陰にいる人物をそのまま写すと、木のカゲが顔にかかって、きれいな表情で写せません。

太陽がまぶしく感じる時は、太陽をななめ後にしてストロボ撮影を。

写したい人物の顔に太陽の光が直接あたると、まぶしくて目が開けられない、というようなことがあります。太陽がななめ後にくるようにして、ストロボ撮影をすれば、目はぱっちりと！

そのまま写すと、太陽の光がまぶしすぎて、不自然な表情に写ってしまいます。

ストロボ発光OKランプの確認をお忘れなく。

ストロボスイッチをONにして、ストロボ発光OKランプが点滅していることを確認してからストロボ撮影をはじめてください。

室内でも、夜間でも、ストロボを上手に使いましょう。

夜間だけとは限らずに、室内撮影の時もどんどんストロボ撮影を楽しみましょう。
少し暗くなってきたなと思ったら、すぐにストロボ撮影に切り換えてください。美しい写真を写すためのコツのひとつです。
ストロボパッ!で、もう24時間すべてがシャッターチャンスです。

(ストロボ撮影時、濃淡コントロールをする時は、カメラ側のコントロールツマミは中央(ノーマル)にし、ストロボ濃淡コントロールツマミで調節してください。)

※作例は、フジ インスタントカラーフィルムFI-10で撮影。

2人以上を写す時は、カメラから等距離にならぶように。

2人以上の人物をストロボ撮影する時は、カメラからそれぞれの人物が同じ距離になるように。光が均等にあたって、きれいに写せます。

カメラからの距離がかわってくると、ストロボの光が均等にあたらず、遠くにいる人はこのように暗く写ってしまいます。

光を強く反射させるものには、写す角度をひと工夫して。

バックに鏡やガラスなど、光を反射させるものがある時は、少し斜めから写すなど、反射光が直接カメラに入らないようにしましょう。

ま正面から写すと、ストロボの光が反射して、こんな写真になってしまいます。

カメラをタテにして写す時は、ストロボの位置を上にして。

カメラをタテにして写す時は、ストロボがカメラの上側にくるようにしてください。
そうすれば、バックの黒いカゲが目立たず、表情も美しく写せます。

ストロボ発光OKランプの確認をお忘れなく。

美しい仕上がりを保つために、こんなことを心がけましょう。

写す構えは正しく。レンズやストロボに指がかからないように。

レンズやストロボ発光部に指などがかかったりすると暗く写ってしまいます。また、EE受光窓に指がかかると淡く(白っぽく)写ってしまいます。

ピント合わせは確実に。シャッターは、静かに、しっかりと。

シャッターを強く押すと手ブレをおこしボケた写真になってしまいます。また、ストロボを使わず暗い所でシャッターを押す時は、三脚を使用して完全にシャッターが切れるまでシャッターボタンから指を離さないようにしましょう。プリントがまっ黒になることがあります。

ストロボ撮影時には、ストロボ発光OKランプの点滅の確認を。

ストロボが充電されていないうちにシャッターを押すと、ストロボは発光せず暗い写真になることがあります。ストロボ発光ＯＫランプが20秒たっても点滅しない場合は電池を交換してください。

カメラからプリントを取り出す時には、端の方を持って。

送り出されたばかりのプリント面を指でつまんだりすると、その部分だけ青紫っぽくムラになることがあります。
また、折り曲げたりすると細い縞模様になることがあります。

取り出したプリントは、熱いものの近くに置かないように。

カメラから出てきたばかりのプリントを熱い砂の上やコンクリート、ストーブの近くなどに置くと暗い(青っぽい)写真になってしまいます。
また、濃淡コントロールのミスによっても暗い写真になることがあります。

特に気温の低い所では、取り出したプリントをすぐに暖めて。

気温の低い所では、プリントが淡い(黄っぽい)感じになってしまうことがあります。カメラをあらかじめ室内などの暖い所に置いておくか、またはカメラから出てきたプリントをただちにポケットの中などで暖めてください。
屋外だけでなく、室内でも気温の低い時もありますので気をつけましょう。
また、濃淡コントロールのミスによっても淡い写真になることがあります。

常日頃からカメラはきれいに。

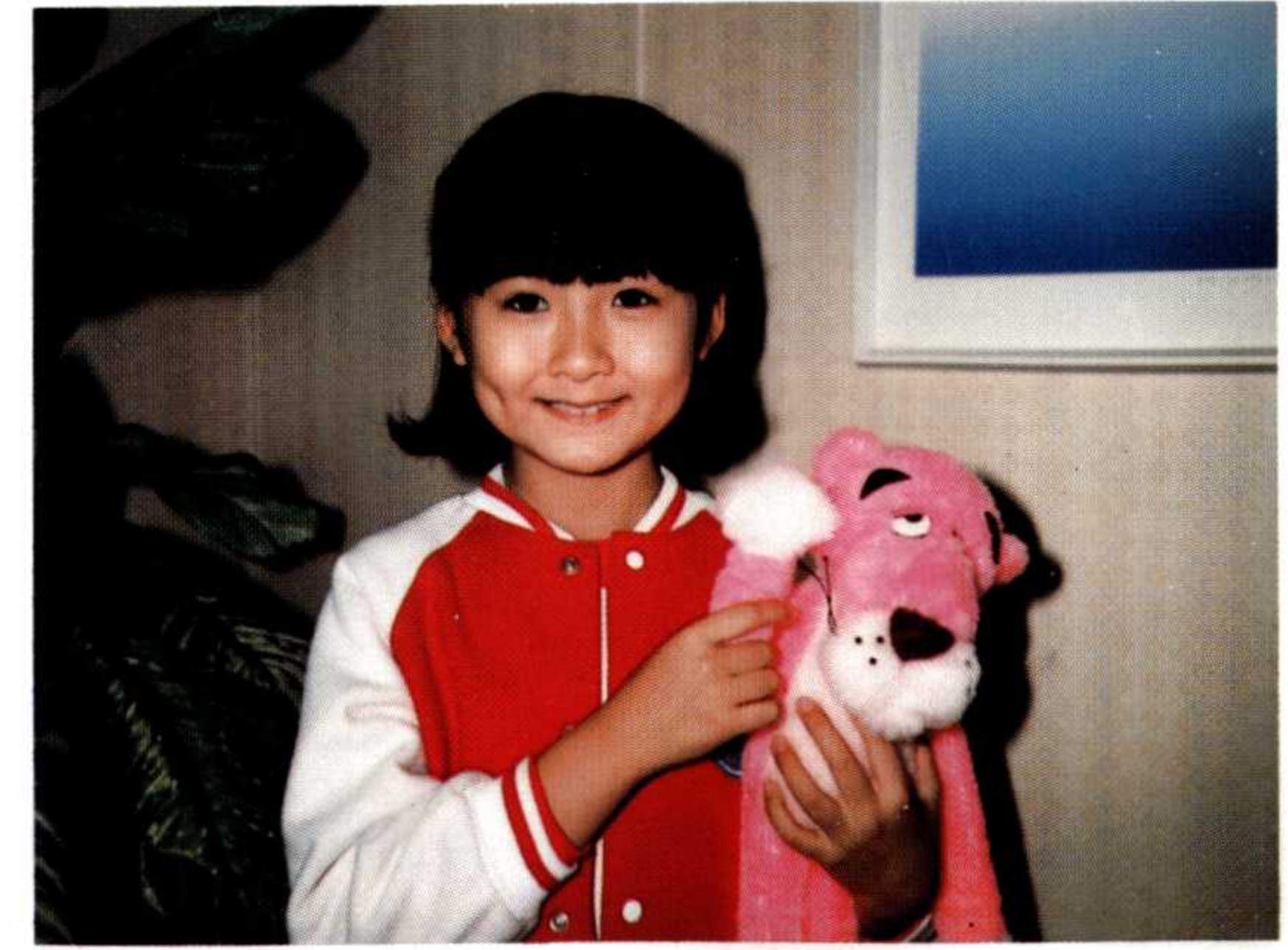
レンズやローラーが汚れていると、ボケたり、ムラになった写真になってしまいます。

フィルムパックの装てんは確実に。撮影中のフィルムカウンターチェックもお忘れなく。

装てんが不充分だとフィルムが引っかかり出てこなくなります。その時は、暗い所で一番上のフィルムを外してもう一度装てんしなおしてください。1~2枚空写しをすればあとのフィルムは大丈夫です。また、フィルムがなくなるとプリントは出てきません。フィルムカウンターでフィルムの有無を確認してください。シャッターの押し方が不充分の時にもプリントは出てきません。

インスタント写真から焼増しができる

インスタント写真は、焼増しや引伸しができないのでは…と、心配される方がいらっしゃいます。大丈夫です。美しい仕上がりで定評あるフォトラマプリントで、焼増し、引伸しともに簡単です。

※作例は、フジ インスタントカラーフィルムFI-10で撮影。

お近くの写真店で“フォトラマプリント”と、ご用命ください。

フォトラマプリントには、
Lサイズ(89×124㎜)・2Lサイズ(127×175㎜)
の2種類があります。

富士写真フイルム株式会社
東京都港区西麻布2-26-30 〒106
宣宣－81·11－MW·20－3(CA)